

東京オリンピックに向けて（1950～1964） その3

《1958年、黒い水事件と都市水害の発生》

1958年（昭和33）は、水循環行政に新たな政策を提起する2つの出来事が発生します。それは、江戸川で起こった黒い水事件と、狩野川台風による東京山の手の浸水被害でした。

まずは、春、旧江戸川の河口（浦安市）の漁民たちが、上流にある製紙工場に乱入します。製紙工場から排水される黒い水が、干潟の貝類の生息を脅かし、漁民に深刻な被害を与えていたからです。6月10日、工場に待機していた機動隊と衝突し、漁民側に重軽傷者が出ます。

これを重く見た政府は、総理がトップの経済企画庁に、水質調査課と水質保全課の2課を新設し、水質行政を開始します。そして、同年、「公共用水域の水質の保全に関する法律」、「工場排水等の規制に関する法律」の2つの法律（旧水質二法）が成立します。

次に、秋の9月26日、狩野川台風が神奈川県に上陸します。狩野川流域では、死者・行方不明者が853名（全国では1269名）に上る大惨事となりました。東京は、カスリン台風より浸水面積が2倍となり、浸水家屋約46万戸、死傷者203人の被害となりました。（注1）

この水害は、初めての都市水害といわれ、中野区、杉並区、世田谷区など山の手の中小河川が氾濫して大きな被害を出したことが特徴です。そして、東京の中小河川が下水道に変更されて暗渠化する、つまり小川を無くすことに繋がっていきます。

そして、年末の12月24日、東京タワー（注2）が完成してオープンします。設計は内藤多仲（注3）と日建設計らが、また鉄工は三菱重工と松尾橋梁が、そして施工は竹中工務店が担当し、基礎工事と約4000トンの鋼材組上げを、約1年半で完成させました。

参考 東京都の戦後の水害

		浸水面積	床上浸水	床下浸水	死傷者	損壊
カスリン台風	1947 年	114ha	80041 戸	45167 戸	11 人	191 戸
キティ台風	1949 年	92ha	73751 戸	64127 戸	122 人	1129 戸
狩野川台風	1958 年	211ha	123626 戸	340404 戸	203 人	962 戸

注1：建設省土木研究所は、この狩野川台風の降雨と河川への流出結果を解析し、貯留関数法を考案しました。

注2：東京タワーは、テレビのデジタル放送切り替えにより、スカイツリーに電波塔の地位を譲りましたが、災害時にスカイツリーが機能喪失に陥ったときには、そのバックアップをすることになっています。

注3：内藤多仲（生没年：1886-1970 年）は、耐震壁による耐震構造理論を考案した建築家。現存する主要なものに、歌舞伎座、早稲田大学大隈記念講堂、世界平和祈念堂、名古屋テレビ塔、二代目通天閣などがあります。東京タワー設計時は、70 歳でした。4 年前には名古屋テレビ塔が完成しています。

写真は、①浦安市の地形、②黒い水事件の新聞記事（①②とも YouTube「ブラタモリ」より）、③狩野川台風の浸水図（HP「CONCOM」掲載資料）、④狩野川台風の被災写真（石神井川の浸水状況 HP「NORTH TOKYO」掲載写真）、⑤完成した日の東京タワー（1958 年 12 月 23 日撮影：HP「毎日新聞」写真特集 掲載写真より）





